

平成29年度 全国学力・学習状況調査の伊勢原市結果の分析について

伊勢原市教育委員会

伊勢原市では、児童生徒の学力や学習状況に関し、継続的な検証改善サイクルの確立を目的として、文部科学省「平成29年度全国学力・学習状況調査」を実施しました。
伊勢原市立小中学校の調査結果の概要をお知らせします。

【調査日時】平成29年4月19日（火）

【調査対象学年】小学校6年生 793人 中学校3年生 803人

【調査内容】

1 教科に関する調査

- ・ 国語A、算数A・数学A・・・主として「知識」に関する問題
- ・ 国語B、算数B・数学B・・・主として「活用」に関する問題

2 児童生徒に対する質問紙調査、学校に対する質問紙調査

【調査結果についての留意事項】

- 実施教科が国語、算数・数学の2教科であり、学習指導要領のすべてを網羅するものではないことから、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であること。
- 年度によって問題の質が異なるため、平均正答率の経年変化のみから、学力の向上、低下の傾向を評価することは難しいこと。

1 教科に関する調査の結果から

(1) 平均正答率

小中学校共に、全国及び神奈川県と比較して、正答数・正答率と大きな差は見られませんでした。

また、小中学校ともに、国語、算数・数学において「活用」に関する調査については、「知識」に関する調査結果と比べると正答率が低く、知識・技能を「活用」する力に課題が見られました。

《平成29年度教科に関する調査の平均正答数と平均正答率（％）（公立小中学校）》

小学校	国語 A		国語 B		算数 A		算数 B	
	正答数	正答率	正答数	正答率	正答数	正答率	正答数	正答率
伊勢原市	10.8	72	5.2	58	11.9	79	4.9	45
神奈川県	11.0	73	5.2	57	11.6	77	5.1	46
全国	11.2	74.8	5.2	57.5	11.8	78.6	5.1	45.9

中学校	国語 A		国語 B		数学 A		数学 B	
	正答数	正答率	正答数	正答率	正答数	正答率	正答数	正答率
伊勢原市	24.2	76	6.4	71	23.0	64	7.0	47
神奈川県	24.7	77	6.5	72	23.0	64	7.2	48
全国	24.8	77.4	6.5	72.2	23.3	64.6	7.2	48.1

※市、県の正答率は国から整数値で提供

(2) 教科・設問ごとの分析結果

教科に関する調査結果について、各教科・設問ごとに分析したところ、習得の状況が良好であると見られる特長と指導の改善・充実が求められる課題とが見られました。

～主な特長と課題～

小学	国語	特長	<ul style="list-style-type: none"> ・学年別漢字配当表の当該学年の前の学年までに配当されている漢字を正しく読むこと。【A問題】 ・目的や意図に応じ、適切な言葉遣いで話すこと。【B問題】
		課題	<ul style="list-style-type: none"> ・学年別漢字配当表の当該学年の前の学年までに配当されている漢字を正しく書くこと。【A問題】 ・目的や意図に応じ、必要な内容を整理して書くこと。【B問題】 ・自分の考えを広げたり深めたりするための発言の意図を捉えること。【B問題】
校	算数	特長	<ul style="list-style-type: none"> ・未知の数量を表す□を用いて、問題場面を除法の式に表すこと。【A問題】 ・示された考えを解釈し、数を変更した場合も同じ関係が成り立つことを、図に表現すること。【B問題】
		課題	<ul style="list-style-type: none"> ・加法と乗法の混合した整数と小数の計算をすること。【A問題】 ・身近なものに置き換えた基準量と割合を基に、比較量を判断し、その判断の理由を記述すること。【B問題】
中学	国語	特長	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の表現の仕方について、自分の考えをもつこと。【A問題】 ・目的に応じて資料を効果的に活用して話すこと。【A問題】
		課題	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の反応を踏まえながら、事実や事柄が相手に分かりやすく伝わるように工夫して話すこと。【B問題】 ・場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解すること。【A問題】
校	数学	特長	<ul style="list-style-type: none"> ・実生活の場面において、ある数量が正の数と負の数で表せることを理解すること。【A問題】 ・円錐が回転体としてどのように構成されているかを理解すること。【A問題】
		課題	<ul style="list-style-type: none"> ・事象と式の対応を的確に捉え、事柄が成り立つ理由を説明すること。【B問題】 ・数学的な表現を事象に即して解釈し、的確に処理すること。【B問題】

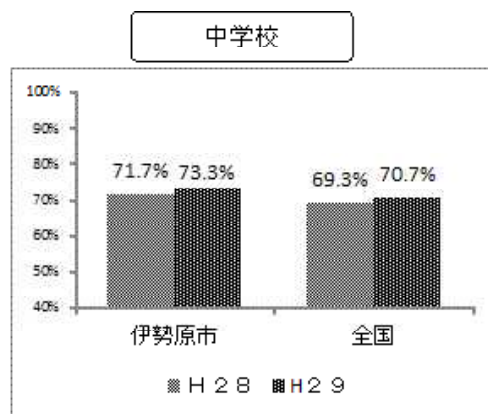
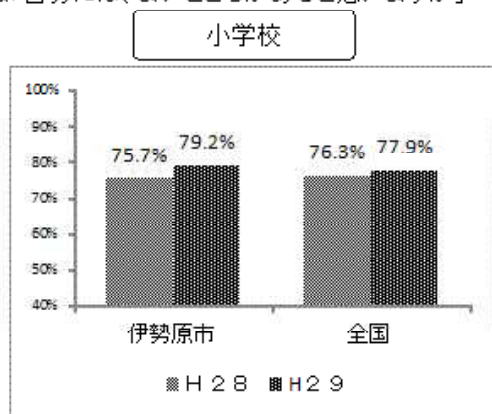
2 児童生徒質問紙調査の結果から

* 各グラフの数値は、質問に対して「あてはまる」「ややあてはまる」と回答した児童生徒の割合を示す。

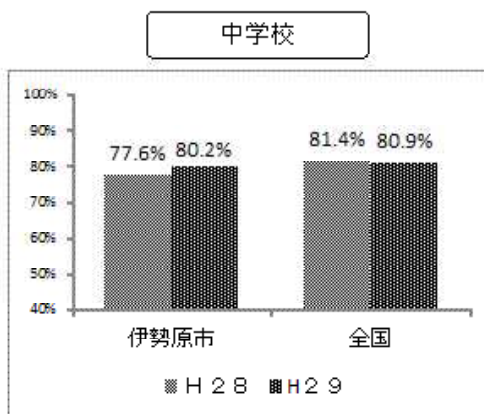
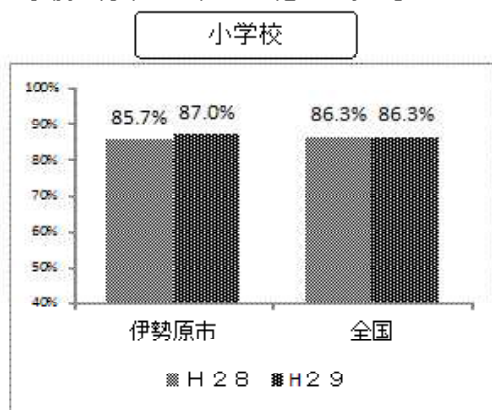
(1) 児童生徒の生活に対する意識に関して

- 自分によいところがあると感じている児童生徒の割合や、学校へ行くのが楽しいと回答している割合は全国平均とほぼ同程度といえますが、児童生徒が自分の持ち味を発揮し、自己肯定感や自己有用感をなお一層高められるよう、道徳教育等、各校における教育活動の充実が望まれます。
- 「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」と回答している割合は、全体的に高い割合を示していますが、引き続き児童生徒の意識を高めていく必要があります。

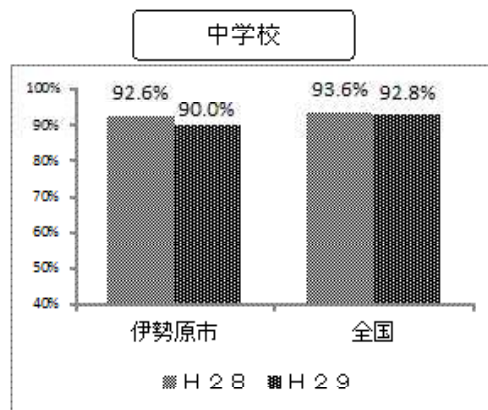
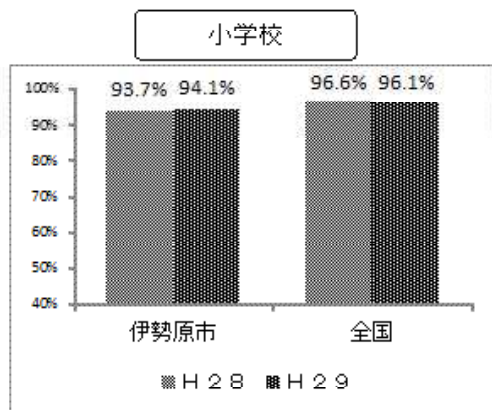
Q「自分には、よいところがあると思いますか」



Q「学校に行くのは楽しいと思いますか」



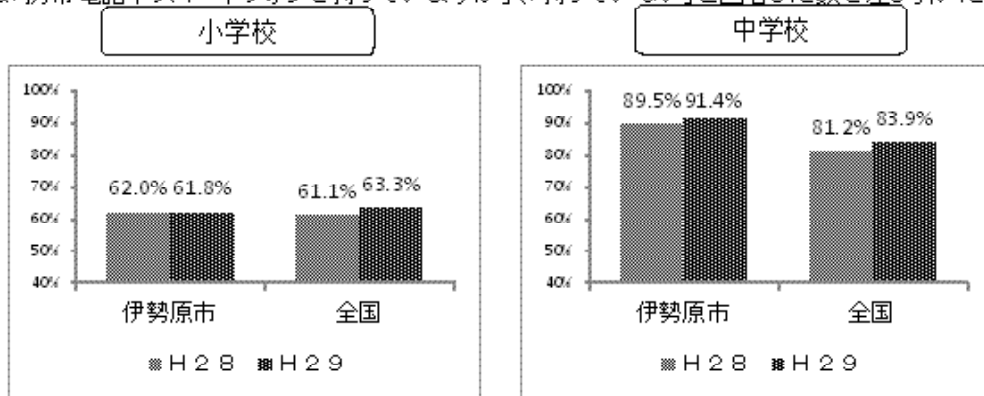
Q「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」



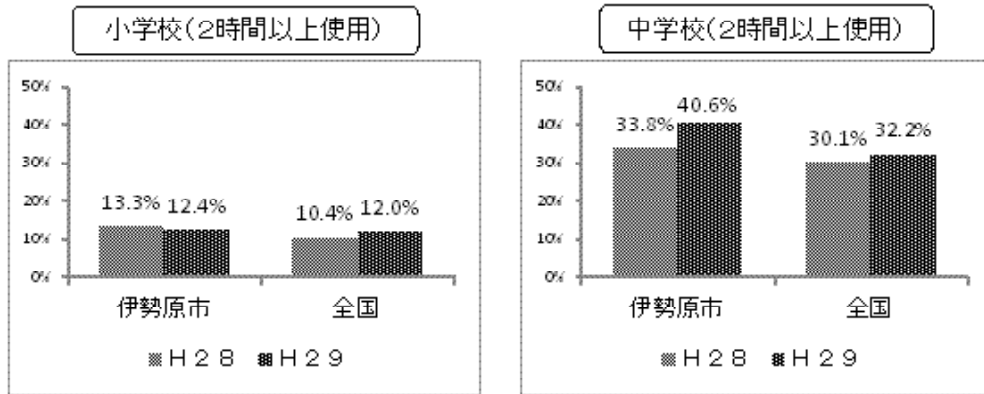
(2) メディアとの関わりに関して

- 携帯電話・スマートフォンの所持率は中学校で全国と比較して高く、また使用する時間もやや長い傾向にあります。
- テレビやDVD、ゲーム等（携帯・スマホ含む）を2時間以上行っている割合は、小中学校共に、全国と比較して高い傾向にあります。
- 伊勢原市中生からのスローガン「伝え合おう 大切なこと 互いの声で」「スマートフォンをスマートに ～大切なのは自制心～」をふまえ、家庭で保護者の方が子どもと「使い道」について話をする機会をもつことが大切です。

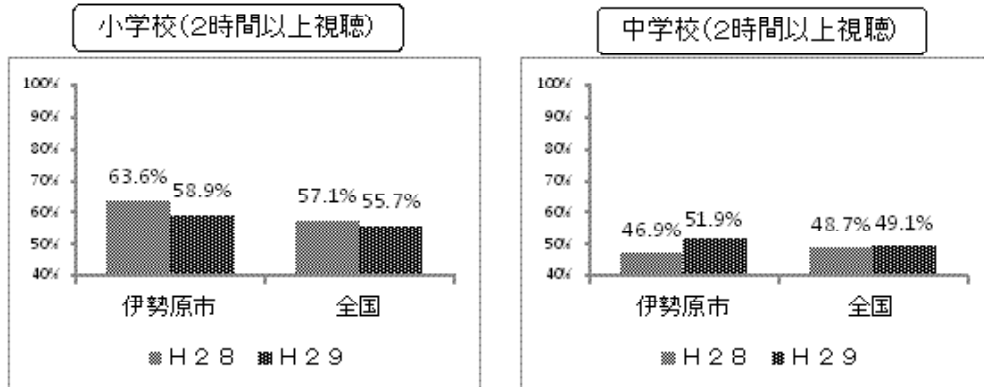
Q「携帯電話やスマートフォンを持っていますか」(「持っていない」と回答した数を差し引いた割合)



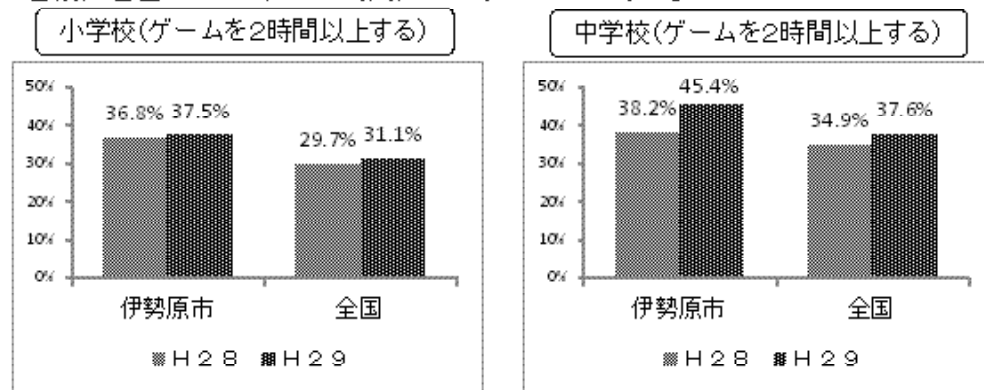
Q「普段、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか(ゲームは除く)」



Q「普段、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしていますか」



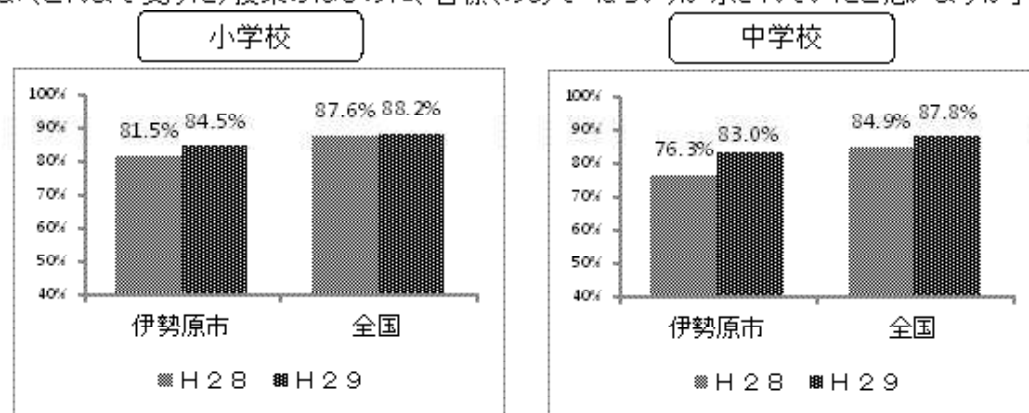
Q「普段、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか」



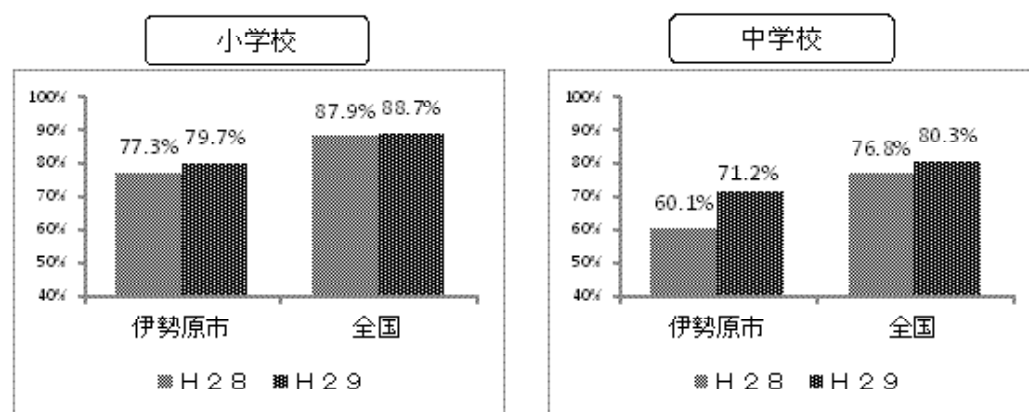
(3) 児童生徒の授業の受け止め方に関して

- これまで受けた授業のはじめに目標(めあて・ねらい)が示されていた、と感じている割合や、ノートに学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いていたと感じている割合は、小中学校ともに全国と比較して低い結果となりました。
- 授業の終わりに学習内容を振り返る活動をよく行っていると感じている割合は、全国と比較して、低い結果となりました。
- 学習したことの意義や価値を実感させるためにも、学習の見通しを立てたり、当該授業で学習した内容を振り返ることは大切です。計画的に振り返りが取り入れられるよう、各教員が見通しをもった単元計画を行う必要があります。

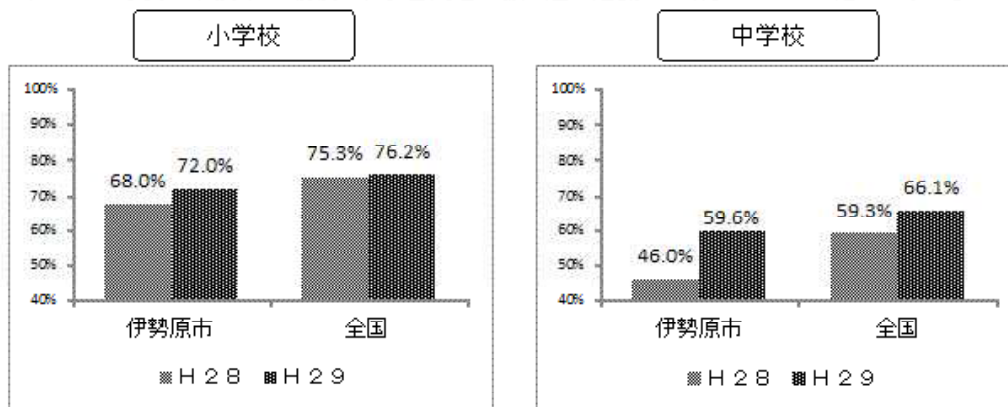
Q「(これまで受けた)授業のはじめに、目標(めあて・ねらい)が示されていたと思いますか」



Q「(これまで受けた)授業で扱うノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いていたと思いますか」



Q「これまで受けた）授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか」



3 児童生徒質問紙調査と教科に関する調査のクロス集計結果から
児童生徒質問紙調査の結果と教科に関する調査結果との関係を見ると、次のような児童生徒ほど、教科の正答率が高いという傾向が見られました。

- 朝食を毎日食べている
- 家の人と学校での出来事について話をしている
- 地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある
- テレビゲームをしたり、携帯電話等で通話やメールをする時間が短い
- テレビやビデオ・DVDを見ている時間が短い
- 家で、学校の授業の復習をしている
- 家で、自分で計画を立てて勉強をしている
- 授業で学んだことを、ほかの学習や普段の生活に生かしている

4 学校がよりよい授業実践に向けて重視していききたいこと

各学校では、次のような点を重視し、全学年・全教科を通じて授業の充実を図る必要があります。

- ☆ 本時のめあてを子どもと共有する。
- ☆ 本時のめあてが達成できたか、本時で何が分かったか、何ができるようになったか、振り返りを行う。
- ☆ めあて、自分の考え、本時のポイント、振り返りをノートに書かせる。
- ☆ 発問や指示を厳選し、子どもの考える時間（書く時間）・相談する時間・深め合う時間を大切にする。
- ☆ 実生活における事象との関連を図った授業を行う。

【小学校国語】

- 共通点や相違点を明らかにしたり、複数の事柄を関係付けたりしながら、話す、聞く、書く、読むこと。→言語活動を通して力をつけること。
- 国語科の学習のみではなく、他教科等の調べる学習や日常生活の中でも積極的に辞書を利用し、語彙を広げること。→実際に活用することを通して身につけること。

【小学校算数】

- 基礎的・基本的な計算技能の確実な定着を図るために、計算の結果の見積もりや確かめの習慣を付けさせること。
- 日常生活の事象を割合を活用して数学的に解釈し、事柄を適切に判断したり、判断した理由を数学的に表現したりする学習を充実させること。

【中学校国語】

- 読書活動や新聞を読むことなどを通して、学びを支える「ことば」を増やしていくこと。
- 「ことば」を根拠に、情報を得る、文章を読み取る、表現する、対話・交流することを意識させながら学習を進めること。

【中学校数学】

- 数量の関係や法則などを文字式で表すことやその文字式から関係を読み取る活動を重視すること。
- 事象の数学的な解釈に基づいて、問題解決の方法を数学的に説明する活動を充実させること。

5 家庭にお願いしたいこと

進んで学ぶ子どもを育てるために、家庭においても特に次の点について、ご指導をお願いします。

- 規則正しい生活習慣を心がけましょう。
例) 早寝・早起き・朝ごはん、家庭学習や読書等の習慣 等
- 家族で、学校や社会での出来事、将来のことなどについて話をしましょう。
- 日常生活の中での「達成感」を大切にしましょう。
例) 家庭の中で子どもに役割を与えましょう、子どものがんばりをほめましょう 等
- ボランティア活動や地域の行事等に一緒に参加しましょう。
- テレビゲームや携帯電話・スマートフォン等の使い方について、話し合ひましょう。
「伝え合おう 大切なこと 互いの声で」
「スマートフォンをスマートに ～大切なのは自制心～」



(平成27年度伊勢原市中学生からのスローガン)

伊勢原市教育委員会では、家庭学習の手引きとして、冊子『学びのすすめ』を作成し、学校を通じて各家庭に配布しています。ぜひご活用ください。

参考) 冊子『学びのすすめ』は伊勢原市教育センターのウェブサイト内リンクリストからダウンロードできます。(<http://www.isehara.ed.jp/center/>)